

## 地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 1 月 18 日
事業所名	グループホーム グレイスフル八田
ユニット名	
事業所番号	2372500633
記入者名	職名 ハウスマネージャー 氏名 肥後 智呼子
連絡先電話番号	(0568) 85 - 5331

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	法人全体の理念であるがグループホームケアに必要なことが理念となっている為、独自では理念をつくっていない。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念は、いつでも確認出来るようにスタッフルームに掲示（各職員に配布もしている）目につきやすくしてある。ミーティングやカンファレンスの中で管理者より理念に沿ったケアについて話している。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	入居時にご家族に話している。運営推進会議でも伝えている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	回覧板やゴミ捨て散歩の際に交流を図っている。また近所の方が犬の散歩の途中で立ち寄ってくださったりグループホーム花壇の手入れを手伝ってくださっている。	お茶会を開き近所の方を招待し交流を深めたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会に入っており清掃活動や敬老会等への参加を通して交流を図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	母体事業所地域包括支援センターと連携し介護者教室等に参加協力している。		3月に介護者教室にて「認知症について」の講師を行う予定
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	理解し、外部評価の結果からより良いサービス提供につながる様、努めている。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている</p>	事業計画・報告やつぶやき、利用者様の生活状況等を話し合い意見交換を行っている。ご家族の要望や希望を取り入れたケアに努めている。また、議事録を職員間で共有している。		運営推進会議には、介護職員も参加するようにしているが、勤務の兼ね合いでまだ参加したことが無い職員もいる。すべての職員が出席できるまでにもう少し時間が必要かと思う。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	制度以外のことでも相談しながらサービス向上に努めている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	研修へ参加する機会があるが制度の理解が不十分な職員もいる。必要な方には支援している。		すべての職員が理解出来るよう勉強会を行いたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	管理者、職員はお互いに注意し関わっている。学ぶ機会はあるが、中途採用者に関しては時期が遅れることがあり管理者から伝えている。		中途採用者教育の中に組み入れて行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>日頃からよく話しをし不安や疑問点がそのままにならないよう配慮している。最近では運営推進会議の場が有効活用されているように思う。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>オンブズマンの訪問が母体施設であり意見等あるときには参加が出来る体制である。また「つぶやき」から不満や苦情が聞かれたときには個別に対応している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月1回「八田だより」の発行。個々の状態を記入する欄があり記入している。また、ご家族との交換ノートを作成。日々の状態を伝えている。月に数回電話にて状況をお伝えしている。面会時も同様。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置。家族会や運営推進会議にて意見交換を行っている。苦情については苦情報告書にてあげる体制があるが、現在のところ無し</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングやヒヤリングの機会を活用しているが「運営」について深く聞く機会を特別に設けていない。</p>	<p>運営に興味もてるような勉強会の開催や意見を聞きやすくする対策を作りたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日々の状況に応じ勤務調整を行っている。また行事等への配慮もしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の規模が大きい為、異動も少なくない。退職の場合は引継ぎを行い、利用者様へのダメージが最小限となるよう配慮している。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スーパースターシートを活用し個々に必要な研修へ参加出来るようにしている。介護福祉士や介護支援専門員の資格取得の勉強会や研修会の実施。スキルアップの為、海外研修も行っている。法人内に教育担当者・研修センターがあり研修の情報提供がある。		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の居宅介護支援事業者連絡会に加入している。その他外部研修		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス解消の一つとして趣味の教室を開催している。また、ヒヤリングの機会を設けている。有給も出来る限り取れるよう配慮しているが、職員によってはストレス度が違う為難しい面もある。休憩場所の確保も難しい状況である。		狭い環境でありなかなか休息にはなりにくい。ハード面が大きいが何らかの対策はとって行きたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々のレベルに合わせ得意とすることを願うようにはしている。またスーパースターシートに沿った研修への参加も勧めている。		職員のやる気と能力に差があることがある為、研修会や勉強会、日々の関わりを通して教育して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>法人内申し込みセンターや地域包括支援センター、居宅支援事業者等と連携しつつ信頼関係の構築に努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からの相談に対して個々に対応している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>法人内申し込みセンターや八田町管轄の地域包括支援センター、居宅支援事業者等と連携し対応している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者様の個性に配慮しながら対応している。また、入居までにグループホームへ遊びに来ていただく回数を少しずつ増やしなじみの関係ができるよう配慮している。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に日常生活を送る中で人生の先輩として教えて頂く機会があったり、困難なことを助け合う、得意なことが自然と行える支援を行いながら関わっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に利用者様と関わり、支援している。ご家族が利用者様と関わり易い環境に配慮している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	グループホームでの様子を伝えご家族と過ごす中での会話等も交換ノートに残していただき情報を共有することで以前より関係が深まったように思う。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホーム入居後もお友達が尋ねてみえたり文通を試みえる。遠く行けない方等には、故郷の話や写真等を利用している。		個々の状態（精神）によってはご家族と協力し希望の場所への外出を行っていただけると良い。
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	カンファレンスを行う中で個々の個性を尊重しながら共同生活が円滑に（助け合い）なるよう配慮している。		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて退居後も相談に応じている。		退居後も、グループホームへ遊びに来て頂けるような雰囲気作りや関係を作っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>法人の理念に「利用者の立場に立って考える」とあるように「つぶやき」を吸い上げケアに活かしている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時にご家族や本人様から生活歴や環境を聞き把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>1人月1回カンファレンスを行い状態を把握している。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族へカンファレンスの日時を知らせ参加を促している。毎月カンファレンスを実施。参加出来ない職員にも意見を事前に聞き行っている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月～半年ごとの見直しを行っている。体調不良や入退院等の状態に変化が見られるときには迅速に見直し変更を行っている。</p>	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランで決まった事は、チェック表やサンケア（介護記録）に残している。そこから総合的にカンファレンスにて評価を行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の他サービスが必要な時は各事業所と連携をとり支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月に数回色々なボランティアさんが訪問してくださっている。子供110番に取り組む		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	連携をとっている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実例はないが、必要なときには連携をとれる体制をとっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回往診の体制がある。必要時は受診している。眼科や皮膚科はご家族と協力して受診している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月1回専門医の往診がある。周辺症状や職員が日々のケアで配慮すべきことの指導を受けたり相談したりしている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医の病院の看護師と連携をとっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の面会にて状態の把握を行い関係者と連絡調整を図っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個々の状態に応じて話している。また運営推進会議等でも話し合っているが実際そういった状態が見えてくるとご家族の気持ちも複雑である。医師とは連携をとっている。		定期的に状態に変化が見られないにしてもご家族と話し合う機会を設けていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケアを行わない方針の為、法人内施設と連携して状態に合ったサービスが受けられるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーマークを取得し個人情報の取り扱いについては細心の注意を払っている。排泄や入浴についても羞恥心への配慮（声かけ）を行っている。また自尊心を傷つけることがないようにしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>その日に着る服や、やりたい事、食事など日常のあらゆる部分に自己決定の機会を作っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の利用者様、個々の気分によってマイペースに過ごして頂いている。希望の内容によっては利用者様と相談し計画をたてて実施することもある。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>朝着替える時に服を選んで頂く。行事や外出時は伝えどの服にするか選んで頂いている。美容院はご家族に協力して頂きながらなじみの美容室へ出かけている。その他指輪やネックレス、お化粧品をされる方への支援をしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事をその日の気分で行って頂けるよう支援している。盛り付け・配膳・片付け等また、苦手な食材は別メニューにて提供している。		
55 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康面への配慮をしつつ、おやつや外出時、行事の際は希望に沿ったものになっている。(ビールの希望も有り)		
56 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し(チェック表)その方に合わせた時間で支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴して頂ける体制となっているが時間帯は、16時15分～18時30分までの好きな時間帯に入浴して頂いている。体調によっては清拭や足湯になることもある。		
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調や習慣に配慮し必要な方には昼寝を促す等している。またお部屋には、なじみの家具が置いてあり自由に休息している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や現在の希望を取り入れた個別ケアを行っている。また、日常生活の中で能力に応じた家事を行えるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたい希望のある方には持って頂いている。(ご家族了承)外出時に支払うことが出来る方には支援している。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別ケアや外出ドライブ、モーニング、散歩やゴミ出し等その日の気候や気分外出している。		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別ケアで行っている。また、ご家族に協力していただいている。		遠いところをご家族にお願いしているが今後は協力して行っていけると良いと思う。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は、希望される方には支援している。文通してみえる方もみえる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や入居前の友達が遊びに来てくださる。共有空間や各居室で居心地よく過ごせるよう家具の配置や花、照明、臭いに十分配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束は無い。やむ得ない場合は、ご家族に了承をとり記録に残すことになっているが現在のところ該当なし		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠は無い。職員統一出来ている。		
67 利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	起床時や食事の前後、就寝前と随時所在の確認を行っている。その日の状態により対応している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すべてを無くすのではなく、危険度が高い場合検討し対応している。無くす前に形を変えたり見守りを強化するなどして取り組んでいる。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会を行ったり研修会へ参加してりしている。		
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	不定期ではあるが年に数回勉強会や研修会があるが中途採用者の入社時期によっては先延ばしになってしまうことがある。		中途採用者への教育を徹底したい。
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの作成。避難訓練の実施。近隣への理解や消防署への働きかけを行っている。		寒い時期は、利用者様が気分的に訓練に応じてくださる事が少なく会話として話し合う程度になってしまうが継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時に説明し利用者様の状態の変化に合わせて随時話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回午前・入浴前にバイタル測定を行っている。いつもと違うと感じた際は測定後管理者に報告、記録にて職員間で共有している。ご家族連絡も行っている		
74	服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関することはダブルチェックとしている。病歴、薬の一覧表があり把握できるようになっている。		不十分な職員が居る為、教育の充実させていく。
75	便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量の把握、排便の把握。また、朝はヤクルトかヨーグルトを毎日提供。献立の中に食物繊維の食材を取り入れている。便秘がちな方には腹部マッサージや体操を促している。		
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、うがい液にてうがい・歯磨きを支援している。利用者様によっては食事の前後の場合もある。就寝時、起床時の個の生活パターンに合わせ義歯洗浄・消毒をおこなっている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、管理栄養士の指導のもと利用者様の好物、季節の食材を取り入れ提供している。また、個々の病歴、その日の状態に配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルに沿って対策している。インフルエンザ予防接種をしている。うがい・手指の消毒を行っている。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、食器や調理器具の消毒を行っている。食材は、毎日～1日おきに買い新鮮な物を購入している。刺身等の生ものは食べる前（当日買い）に購入している。		
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常に掃除に心がけている。玄関前の花壇は近所の方と一緒に手入れして季節の花が楽しめるように配慮している。玄関には、利用者様が塗った絵手紙（季節の花や食べ物等）を飾っている。		玄関ポーチと道路の境は階段があり不自由している利用者もある。手すりの検討をしていく。
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は、食事が美味しそうに見えるよう暖色系の照明を使用。リビングは、読書やレク等、見えやすいよう白色系の照明を使用している。掲示物は季節感が出るよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、畳・リビングソファ・ダイニングと好きな時に好きなところで過ごせるようになっている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居前から使用している家具や思い出の写真。入 居後、利用者様の好みで買われた物を飾るなどご 家族にも協力して頂いている。		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気には特に配慮している。温度・湿度計を見て 快適な状態を保つようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	バリアフリーであったり手すりを付けている。一 部分あえて段差になっているが危険の少ない部分 である。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレの表示や分りにくい方の部屋の前には名前 を掲示する工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	家庭菜園（プランター）や花、日光浴をしてい る。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	身体的理由で困難な方がみえる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	面会が少ないご家族とは、信頼関係まで到達していないように感じる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	重なる時には、数人みえる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個別ケア、ご家族・地域との交流に力をいれています。生活歴だけでなく今現在楽しみとなることを見つけ認知症ケアに活かしていく。カンファレンスを月1回行いきめ細かなケアができています。